



安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第9号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

出穂は目前です！ 水管理の徹底と病害虫の発生に注意を！

7月10日現在の生育状況は平年に比べ「草丈は短い」「茎数は多い」「葉齢は平年並～やや早い」「葉色は平年並」となっています。

仙台管区気象台の向こう1カ月予報（7月9日発表）によると、気温はかなり高くなると予想されております。高温時の水のためっぱなしは根腐れや稲体の消耗を助長するため厳禁です。間断灌水や飽水管理を徹底し、根の活力維持に努めましょう。

今年は既に管内の平場で葉いもちの発生が確認されています。気温・湿度の高い日が多く、いもち病の感染に好適な気象が続いております。圃場を観察し、葉いもちが確認された場合は最寄りの営農課へご相談ください。

斑点米カメムシ類の活動が活発になる時期です。特に畦畔・農道・休耕田等の雑草の多いところで増殖しますので、地域を挙げた一斉除草で生息密度を低減しましょう。

◎7月10日現在の生育状況（酒田農業技術普及課生育診断圃データ）（ ）内は平年対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉 色 (SPAD 値)
は え ぬ き	60.2 cm (91)	706 本/m ² (113)	11.0 (+0.2)	37.0 (−2.5)
つ や 姫	59.7 cm (87)	607 本/m ² (125)	11.2 (+0.6)	40.7 (+2.1)
雪 若 丸	54.1 cm (87)	673 本/m ² (101)	11.0 (±0.0)	38.5 (−3.5)

出穂期予測（平坦部）…各地区の現地巡回調査による。

ふくひびき	ひとめぼれ	雪若丸	はえぬき	つや姫
7/27～7/30	7/30～8/3	7/30～8/4	7/31～8/4	8/6～8/9

※飼料用米「ふくひびき」は実需先より数量確保を望まれています。圃場によっては実肥（目安：出穂後3日以内、1.0～1.5 kg/10a）の実施を検討し、増収を目指してがんばりましょう！

やまがた米づくりナビ

アクセスはこちらの
QRコードから→



- 『適期作業カレンダー』を活用し、出穂時期を把握しましょう！
対応品種：「つや姫」「はえぬき」「雪若丸」「ひとめぼれ」など

酒田普及課 LINE

- 生育診断圃の生育状況
●適期刈取りに向けた情報
など



←友達登録は
こちらから

技、其の一 水管理の徹底を！

1. 圃場が乾いていない場合は作溝の手直し・暗渠排水を行い、できるだけ圃場を乾かすことを優先しましょう。
2. 乾いた圃場では、2湛2落（間断灌水）の水管理を行い、土壤水分が不足しないよう注意し、『飽水管理（作溝に水を溜め、土中に十分な水分がある状態）』に努めましょう。圃場全体へのためっぱなしは厳禁です！
3. 出穂14～7日前（7月中下旬）に平均気温20℃以下の低温が続くと障害型不稔が発生する懸念があります。低温時には一時的に深水管理（水深15cm）を行い、稲体・幼穂を保護しましょう。
4. 出穂から穂揃い期（7日間程度）までは、開花・受精に十分な水分（花水）が必要になります。開花期は湛水状態とし、穂揃い期以降は土壤水分や圃場条件に応じた間断灌水（2湛2落または2湛3落）へ移行しましょう。
5. 出穂直後、高温・強風（フェーン現象）に遭遇すると白穂や枝梗枯れ等が発生しやすいため、天気予報を注視し、事前に湛水するなどして稲体を保護しましょう。

技、其の二 カメムシ対策はこまめな草刈りと雑草除去を！

7月2日付で斑点米カメムシ類発生予察注意報が発令され、斑点米カメムシ類の発生量は「多い」となっております。出穂期になると畦畔・農道・休耕田等から水田内への飛来侵入が多くなります。

カメムシ対策は、適切な薬剤防除と圃場周辺の「こまめな草刈り」と「圃場内の雑草（ヒエ、ホタルイ等）の除去」が重要です。草刈りは、8月上旬の無人ヘリ防除前までに刈り終えるようにしてください。また、例年カメムシ被害が発生している圃場については、裏面の「令和8年度 粉剤防除計画」を参考に補完防除を実施しましょう。

※8月中の草刈り休止期間については現在検討中です。生育状況や、登熟進度、稲刈りの推定開始時期等から総合的に判断し改めてご連絡致します。

一斉草刈りデー 7/24(金)～26(日)

技、其の三 こまめな圃場巡回で病害虫の早期発見を！

いもち病は早期発見に努めることが重要です。今年は既に管内の平坦部で葉いもちの発生が確認されています。特に葉色の濃い圃場や過繁茂の部分を観察し、上位葉に葉いもちが確認された場合、直ちに追加防除を実施しましょう。

紋枯病の発生は「平年並」と予想されています。前述について昨年発生が多くみられた圃場や例年発生が見られる圃場では圃場を良く観察し、発生が見られた場合は穂ばらみ後期に追加防除を実施しましょう。

- 各種病害の防除時期です。例年発生している圃場では、下記薬剤で対応しましょう。

薬剤名	使用量/10a	使用時期	対象病害名
モンガリット1キロ粒剤	1kg	出穂14日前まで	紋枯病、稲こうじ病、墨黒穂病
ブラシン粉剤DL	4kg	出穂10日前まで	いもち病、稲こうじ病 など
Zボルドー粉剤DL	4kg	出穂10日前まで	稲こうじ病、墨黒穂病

※Zボルドー粉剤DLは、葉が濡れている時や出穂期近くに使用すると薬害の恐れがありますので、必ず葉が乾いているときに使用してください。



◎ 令和8年度 粉剤防除計画

一斉防除時期	防除薬剤名	使用量/10a	対象病虫害名
7月下旬 (穂ばらみ後期)	ノンブラストレバリダ粉剤 DL	4kg	いもち病、紋枯病 カメムシ類
8月上旬 (穂揃期まで)	ダブルカット K 粉剤 DL	3～4kg	いもち病 カメムシ類
8月中・下旬 (乳熟期)	キラップ粉剤 DL	4kg	カメムシ類、ウンカ類、 イナゴ類

※粉剤（粒剤）防除の場合

- 各地区の防除計画に基づき、必ず一斉防除期間内での実施をお願い致します。
- 農薬の使用時には、農薬の使用基準を順守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意してください。
- 特別栽培米は計画された薬剤以外は使用できませんので、必ず各営農課へご確認ください。

技、其の四 こんな稲は倒伏軽減の対策を

ひとめぼれ 出穂12日前の生育（7月20日頃）

危険度	草丈（cm）	葉色（葉色板）	対 策
中	73～75 cm	4.8 以上	倒伏軽減剤 2kg/10a 施用
大	76 cm 以上	4.8 以上	倒伏軽減剤 3kg/10a 施用

【倒伏軽減剤の使用について】

出穂20～10日前に倒伏軽減剤を使用する場合は、「スマレクト粒剤」または「ロミカ粒剤」を使用しましょう。特別栽培米および飼料用米には使用できませんのでご注意ください。スマレクト粒剤の重複散布や多量散布は、後作物や次年度の作物に影響する場合がありますので使用量に注意しましょう。

当面の大豆管理対策

今年は播種時期によって圃場間差はありますが、全般に生育は順調です。適切な管理で高品質・安定多収を目指しましょう。

1. 生育対策

- 開花前に株元までしっかりと仕上げ培土を実施しましょう。
- 大雨などで圃場内に水が停滞しないように、事前に明渠（暗渠）を確認し、排水路の点検・手直しを行なって今後の降雨に備えましょう。
- 葉色が淡い圃場では、培土前に必ず尿素 10kg（現物量）/10a 等の追肥を実施しましょう。
- 土壌の乾燥による落花、落葉を防ぐために、開花期の畝間灌水を行いましょう。

2. 雑草対策

大型化する雑草（タデ類、オナモミ、シロザ等）は早めに抜き取りましょう。放置すると害虫の発生も多くなり、コンバイン収穫にも支障をきたします。良質大豆を生産するために、早めに除去しましょう。

3. アブラムシ対策（ジャガイモヒゲナガアブラムシ）

アブラムシは、気温が高くなると8月以降に発生が多くなることもあるので、注意深く圃場を見回って、早期発見に努めましょう。

園芸情報

長ねぎ栽培の露地秋冬どりの管理について

長ねぎ栽培は春先に収穫を行う春どり栽培（春ねぎ）、7月～9月末まで収穫を行う夏どり栽培（夏ねぎ）、10月以降に収穫を行う秋冬どり栽培（秋冬ねぎ）があります。秋冬どり栽培は、水稻の田植え後に定植、稲刈り後に収穫の作業を行うことができますが、病虫害への対策や適切な管理作業を行わないと収量や品質に影響を及ぼします。下記のポイントを押さえて、高品質・高収量な栽培を目指しましょう。

○使用品種

「大河の轟き」、「森の奏で」などの晩生品種を使用します。

○栽培管理

§ 播種時期：3月上旬～4月上旬

高温対策として、発芽するまでは遮光資材を活用し、発芽後は外して光を当てましょう。高温期に向かっての育苗となるため、乾燥に注意し適宜灌水します。

§ 定植時期：5月中旬～6月上旬

気温が高く苗の生育が早いため、老化苗にならないよう適期に定植しましょう。

§ 収穫時期：10月上旬～12月中旬

年によっては雪が早く降るため、降雪前までに収穫を行いましょう。

【ポイント】

- ①明渠など圃場の排水対策を徹底しましょう。
- ②雑草が小さいうちから除草を行い、ねぎの生育に合わせて土削りを行います。除草は朝方と夕方の涼しい時間帯に行い、日中はやめましょう。
- ③土削り、土寄せは適期に行いましょう。時期が早いとねぎの太りが悪くなり、逆に遅いと台風や強風で倒伏する恐れがあります。また土寄せに合わせて追肥を行いましょう。追肥の目安量は窒素成分で3～4kg/10aを3回です。
- ③土寄せ時は軟腐病に注意しましょう。高温時の土寄せや灌水は厳禁です。土寄せ時は殺菌剤の散布を行い、軟腐病の発生を防ぎましょう。
- ④収穫時期の10月以降は気温が下がり雨も多くなるため、病気の発生に注意しましょう。特に赤さび病は気温が低下すると発生しやすいため、発生しないように、降雨前や収穫前には殺菌剤で防除を行いましょう。

注意！毎年ドリフト被害の相談があります。ドリフトが原因で農産物の流通（出荷・販売）が不可能になった場合、原因となった農薬散布者の責任となります。畦畔及び転作田の除草剤（茎葉処理液剤）を散布する際は周辺作物に十分注意し、風のない日と時間帯を選び、ドリフト低減ノズルと飛散防止カバーを必ず使用しましょう。

★次号の発行は8月10日です！